#02 テレビディレクター

番組は自分の「子ども」。多くの人が見て喜んでくれることがうれしい

株式会社TBSテレビ 編成制作局 制作センター バラエティ制作一部

≫どんな学生でしたか?

テレビはもちろん、音楽、映画、マンガ、本などが好きで、家にいる時間が長かったですね。特に大学時代はひどくて、家にいる間はテレビをつけっぱなし。トイレやお風呂の時もテレビをつけていた気がします。

「人は10代で吸収したものをあとは吐き出すだけ」という言葉を聞いたことがありますが、それに近い感覚はありますね。10代で見聞きしたことが自分のベースになっているのは間違いないので。それを今出しているのかなと思います。

特に好きでよく見ていたのは、『進め！電波少年』『天才・たけしの元気が出るテレビ!!』といった、テレビ番組のスタッフがおもしろいことをしかけているバラエティー番組です。それがディレクターになったきっかけかもしれません。

≫お仕事の内容を教えてください。

テレビ番組や番組内のコーナーについて、企画から準備、ロケ、スタジオ収録、編集まで、一貫して責任をもち番組をつくりあげます。テレビ局に勤める会社員ですが、会社員にしてはまかされている権限が大きく、できあがった番組は自分の「作品」であり、「子ども」です。それが多くの人の目に触れ、おもしろいと言ってもらえるのはすごくうれしいし、楽しい仕事だと感じます。ただ、どんなに頑張っても完璧な正解は出ないし、放送日まで「もっとできるのではないか」と考え続けるのは大変。よくADはツラい仕事だと言われますよね。確かに拘束時間が長いなどツラい面もありますが、極端にいえばADは人に言われたことをやればいいだけ。そういった意味ではディレクターのほうがずっと大変です。

> テレビが好きじゃないとしんどい仕事かも。テレビ以外でも文化的なものに興味がある人のほうが成功しやすいと思います。

≫仕事に必要な力はなんですか?

出演者、カメラ、音声、照明、美術など、多くの人とのチームプレイなので、最低限の協調性とチームをまとめる力が必要です。さらに上のレベルになると、センスが問われますね。つくった番組には「自分」が出るので、自分にしか出せないものをもっていないと。それをマニアックになりすぎず、たくさんの人に楽しんでもらえるような形で番組にします。

番組制作の現場には、おもしろいことが好きな人がたくさんいます。普段の会話も楽しいし、ずっと笑いっぱなしの最高に楽しい会議だってあります。テレビの前の人を笑わせるために、いい大人が朝までくだらないことを必死で考える。ステキな仕事だと思います。

≫この仕事についてよかったと感じるのはいつですか?

09年の正月特番として放送した『新型芸人オークションキリウリ』という番組では、提示されたお題に対し、芸人さんたちが企画を提案して、採用された企画を遂行できれば賞金獲得というフォーマット(型式)を考えました。「毎朝7時に○○で目覚まし！1週間耐えきれたら10万円！」というお題なら、「毎朝バズーカー砲で起こされる」など、芸人さんたちが企画を出し合うのです。このお題ではオードリー春日さんの「毎朝7時に『土砂』で目覚まし」という企画が採用され、実行されました。このフォーマットが成功して、スタジオに集まった50人の芸人さんがとても盛り上がったんです。その様子を見ていた時は、すごく幸せだと思いました。放送後は、視聴者の方から「人生が変わるくらいおもしろかった」とメールをいただくなど大きな反響もあり、うれしかったですね。今後もたくさんの人に楽しんでもらえるような番組をつくっていくのでぜひテレビをたくさん見てください。

■藤井さんのある1日

- 9:00 出社
- 構成作家と会議。番組の内容を考える
- 12:30 ロケ。現場の責任者として目を配る
- 15:00 いったん抜けて映像の編集作業へ
- 19:00 ロケ現場に戻って続きを収録
- 22:00 帰宅

#03 放送作家

24時間楽しいことを考えてそれがお金になる。おもしろい仕事です

放送作家

放送作家は「何がおもしろいか」をひたすら追求するのが仕事。イメージとは違ってじっくり考えるのが得意な人に向いているんです。

≫放送作家の仕事内容について教えてください。

ボクはバラエティー番組を担当しているのですが、番組の制作にどうかかわっているかを説明すると、まず番組の企画を考えます。番組全体の企画を考える場合もあれば、1コーナーだけ担当する場合もありますね。会議、ディレクターや出演者との打合せを重ねて全体像が決まったら、細かい内容を決めていきます。次に全体の流れを詰めて台本を作ります。ここまでが放送作家の主な仕事ですね。収録には立ち会うケースもあれば立ち会わないケースもあります。また、VTRを編集後、ナレーションを書くこともあります。と言いつつ、どこからどこまでが放送作家の仕事なのかっていうのは実はすごく曖昧なんですよね。ボクも業界に入りたての頃はよくわからなかったですし。

≫バラエティー番組の台本はどういうものなんですか?

この台本という概念がわかってもらいにくくて。例えば、番組中のコントの台本は、一つひとつの台詞などをしっかり書き込んだ文字通りの台本。これに対して、トーク番組やロケ番組などの場合は、MC(司会者)の質問の内容や質問の順番、出演者のスタンスを想定したやりとりなどを台本にまとめますが、これは一字一句このとおりにというわけではなく、出演者にまかせるところはまかせます。それでも番組をスムーズに進行させるために台本はしっかり作り込むので、1時間番組でA4紙30枚くらいにはなりますね。

≫放送作家になるまでの経緯を教えてください。

原点はダウンタウンさんですね。中学生の頃に夢中で見ていましたから。テレビが大好きでした。高校はラグビー部だったので部活漬けの毎日。大学はバイトと遊びに明け暮れていました。こうして振り返ると、その瞬間にやりたいことをやるという感じの学生時代ですね(苦笑)。

大学を留年してこの先どうなるんだろうと考えていたとき、飲み屋で知り合った今の事務所の先輩に「放送作家になる?」と誘われたのが業界に入ったきっかけです。それまでは放送作家なんて仕事があることも実は知らなくて(笑)。ただ、テレビ、笑いには興味があったので、事務所主催の放送作家セミナーで半年基礎を勉強して、大学5年から放送作家として働き始めました。事務所に所属はしていますが、基本的にはフリー。放送作家はみんなそうです。

最初は「リサーチ」といわれる下調べなどのアシスタント業務が中心でした。その間、企画を出し続けて、1年ちょっと経った頃から少しずつ台本をまかせてもらえるようになりました。当時は「何でもやります!」「それやらせてください!」ととにかくがむしゃらでしたね。

≫この仕事のおもしろさとは?

ずっと楽しいことだけを考えて、会議室でみんなでゲラゲラ笑って、それでお金がもらえるんですからこんなに楽しい仕事はありません。それに、自分が考えたコントやギャグでみんなが笑ってくれると気持ちいいんです。ただし、スベッたときはゲロ吐きそうになりますけど(笑)。

≫忙しそうなお仕事ですが。

今レギュラーの番組を7本担当していてそれぞれ企画書を作り、打合せして、台本を書いてという毎日なので確かにゆっくりは寝られませんね。でも、忙しいのも慣れるもんですよ。ただ、バラエティー番組の放送作家は、笑いが好きじゃないとできない仕事かもしれませんね。

■寺田さんのある1日

- 3:00 編集所で番組のナレーションを執筆
- 11:00 喫茶店で企画書を作成
- 14:00 テレビ局で打合せ(2件)
- 20:00 ディレクターと食事後、自宅へ帰り仮眠。明け方には企画書作成
- 6:00

#04

映像カメラマン

1本の作品を撮るたび大きな達成感があり次への意欲がわきます

株式会社コスモ・スペース テクニカルプロデューサー

≫お仕事の内容を教えてください。

私がいる部署は、ドキュメンタリー、バラエティー、ドラマ、ライブやスポーツの中継、CM、企業ビデオパッケージなど様々な映像を制作しています。そこでカメラマンとして映像を撮るほか、撮影監督もしています。

映像制作には、カメラ以外にも照明や音声、美術など多くの技術者が携わっていますが、そのなかでカメラは一番前に出る仕事です。責任も大きいし、ディレクターとコミュニケーションをとってアイデアを出し合います。撮影技術会社に仕事の依頼が来るとき、指名があるのもカメラマンです。

≫お仕事のやりがいは?

撮影現場にはたくさんの人がいて、スタッフ全員がいい作品をつくるという1つの目標に向かって真剣に仕事に取り組んでいます。そして最後のカットを撮影し監督からOKが出ると、大きな拍手がわきます。そのたびに大きな達成感と、スタッフ全員でつくりあげた喜びがありますね。仕事が終わると、次はこうしてみよう、こういう画を撮りたいと、また目標ができ、夢が広がっていきます。映像が好きだからキリがない。楽しいですよ。

今は機材の進化が目覚ましく、アナログからデジタルに移行し、3Dやハイクオリティー映像など、どんどん新しい技術が出てきているのですが、私より先輩の方々も貪欲に新しい技術を勉強しています。みんな映像が好きなんですね。朝まで語り合うこともしばしばです。

≫映像カメラマンになった経緯は?

小学3年生の時、母が8ミリカメラを買ってきたんです。それを回しながらロープウェーに乗ったら、ふーっと景色が動いていく映像が撮れてとても興奮してね。それがカメラをもった初めての経験です。部活も小・中・高と放送部。遠足ではビデオカメラをもって走り回ったりして、かなり本格的に取り組んでいました。だから、映像の専門学校に進んだのは自然な流れだったように思います。専門学校では照明を勉強。会社に入り、先輩から「性格がカメラマンだ」と言われてカメラマンの道に進むことになりました。カメラは前に出る仕事だと言いましたが、その辺が私に向いていたのではないでしょうか。

≫どうすれば映像カメラマンになれますか?

当社の採用では、映像系の専門学校や大学を卒業した人をとることが多いですね。学校は、先生と機材を見て選ぶといいでしょう。現役で活躍している先生からなら、撮影現場で必要な知識が学べるのはもちろん、経験談を聞くなかから「自分も同じような仕事がしたいな」と夢が生まれます。仕事についてからも、現場のプレッシャーを乗り越え、いろいろな悩みを解決していく時に、先生や先輩からのアドバイスが頼りになります。

高校生のうちは、やらなくてはいけないことをきちんとやってください。まず、時間をきちんと守ること。カメラマンになったら遅刻や欠席はあり得ません。またあいさつをすること。友達や先生とよくしゃべること。カメラマンは人付き合いが大切なのに、コミュニケーションが苦手で伸び悩む人がいます。そして、映画やドラマ、雑誌などをよく見ること。「この映像がキレイだな」「すごいな」と感じるだけでいい。そう感じたらもう、撮影の手法を知らないだけで、それを撮った人と同じセンスをもっているということですよ。10代は吸収の時期なので、いっぱい吸収してください。

■中野さんのある1日

- 7:00 集合
- 会社で機材を準備して移動。現場についたら全スタッフが集まってあいさつ。撮影が始まる
- 13:00 昼食
- 最後のカットに監督の「OK」が出ると、みんなで拍手して終了。機材を撤収して帰社
- 17:00 終了
- 20:00 帰宅

たくさんの映画やドラマ、雑誌を見て、「カッコイイ」「すごい」と感じて、10代にしかできないことを吸収してください。

#05 美術デザイナー

見る人がゾクゾクするようなセットを作りたいですね

株式会社アックス 赤坂制作本部 赤坂デザイン部

≫現在の仕事内容について教えてください。

私の職種は「美術デザイナー」といって、テレビ番組のセットをデザインする仕事です。今は『ウンナンのラフな感じで。』『ぴったんこカンカン』『お笑いダイナマイト』(いずれもTBS)といった番組のセットを担当しています。

仕事の進め方を説明すると、まずテレビ局の番組ディレクターらと打合せをして、どんなセットにするのか方向性を決めます。そこから作業に入り、スケッチを描いてイメージを固めてから、CAD(設計用のソフトウェア)を使って図面を作成。さらにセットの模型も作ります。このあと、照明などの技術スタッフも交えた打合せを経て、細部まで確認してから、収録の約1週間前に大道具さん、小道具さんなどに現物の製作を発注。現場でのセットのチェックや急な変更への対応のため、収録にも立ち会います。

≫セットデザインで重要なことは何ですか?

演出の意図を踏まえつつ、自分の味を表現すること。これがなかなか難しいんです。デザイナーになりたての頃は、よくそこで自分のやりたいことに走りすぎてしまい、失敗もしました。また、番組の制作には、様々なスタッフや出演者がかかわりますから、自分の領域だけでなく全体像をイメージしてデザインすることも重要です。例えば、このセットだと照明はどうなるかとか、カメラはどう撮るかとか、出演者に危険はないかといったことにも配慮します。

≫美術デザイナーになった経緯を教えてください。

大学時代に、地元のテレビ局でADやカメラアシスタントなどのアルバイトをしていたんです。間近で番組制作に携わる様々な職種の人たちを見ていて、なかでも美術の仕事に興味を持ちました。実は小学生の頃、『風雲!たけし城』(総工費1億円のセットが話題となったTBSの人気番組)が大好きだったんですよ。工作や美術は子どもの頃から得意でしたし、一つのことに集中して納得いくまでやる性格だったので、自分に向いているんじゃないかと思いました。

そこで、大学卒業後に上京してアックスに入社。最初の7年間は「美術制作」を担当していました。現場の仕切りや進行管理、衣装・小道具の発注などを行う仕事です。現場で経験を重ねながらテレビ番組の美術について理解を深めていきました。その間、「デザインをやりたい!」と会社にアピールし続け、徐々に単発番組の美術デザインをまかせてもらえるようになったんです。

≫デザインについてはどう勉強したんですか?

美術制作の仕事を通してセットの構造などは学んできましたし、自分ならこう作るという世界観ももってはいたんですが、やっぱり一つひとつの色とか質感という部分が実際にデザインしてみると難しい。だから、最先端のセットを使っている外国のドラマなどのテレビ番組や映画を観て研究しました。

≫美術デザインのおもしろいところはどこでしょうか?

いろいろな職種の人たちと一緒に毎回違うものを作ることができるのがおもしろいですね。決して同じことの繰り返しにはならないし、いつも何かしら課題は残る。だから、常に新鮮な気持ちで臨めるんです。

また、「見た人がゾクゾクするようなものを作りたい!」と思ってやっていますから、「あのセット、よかったよ」と言われるとやっぱりうれしいです。特に同業のデザイナーにほめられると気分がいいですね(笑)。

■鈴木さんのある1日

- 11:00 出社
- 午後からディレクターとセットに関する打ち合わせ
- 14:30
- スケッチや図面、模型の作成など実作業に入る。スケジュールによっては夜遅くまで集中して作業にあたる日も。そのまま深夜から行われるセットの設営や翌日の収録に立ち会うこともある
- 23:00

自分の世界観があり、それを表現するのが得意な人に向いている仕事です。高校時代はいろいろ吸収できる時期。いい表現にたくさん触れてください。

#06 ヘアメイク

自分の技術と接客でお客さまに幸せを与えられる仕事です

株式会社ミューズ代表取締役

≫お仕事の内容を教えてください。

現在は京都、東京などでヘアメイクサロン「MUSE」のほか、ブライダルやエステなど国内外あわせ計16店舗で事業展開をしています(海外:グアム、バリ、ハワイなど)。

また、神田うのさん、南明奈さん、塚本高史さん、酒井彩名さんなどタレントのヘアメイクや、パリコレクション、NYコレクションなどのファッションイベントで、モデルのヘアメイクを担当することもあります。

さらに、アミューズ美容専門学校の講師もしていますし、サロンのスタッフの育成も大事な仕事です。

≫ヘアメイクの仕事についた経緯を教えてください。

大学では水泳部に所属し、練習漬けの日々でしたが、2年生になって、ふと将来のビジョンを考え始めたんです。

もともと職人的な仕事にあこがれてはいましたが、なかでもヘアメイクを選んだ理由としては、当時この業界は女性が多かったという不純な動機もありました(笑)。やると決めたらすぐ行動に移す性格なので、在学中からアミューズ美容専門学校でヘアメイクの技術を学び始めました。卒業後はすぐに美容室に就職。迷いはありませんでしたね。この頃からすでに「30歳までには独立しよう」と考えていました。

お客さまと喜びを共有できるのが、接客サービスの醍醐味。その喜びがポテンシャルを引き出し、スキルの向上へとつながるのです。

≫では、高校生の頃はヘアメイクに興味は…?

高校も水泳部でしたから、部活と遊びの毎日。将来のことなど考えてもいませんでした(笑)。ただ、昔は美容業界も上下関係が厳しい世界でしたから、高校、大学と運動部で鍛えられた経験は大きかったと思います。

≫就職してからどうやって腕を磨いていったのですか?

最初の3年間は、営業時間中はひたすらシャンプーと接客。営業が終わったあとに先輩を捕まえて技術を教えてもらってブローなどのスキルを一つずつ磨いていきました。お客さまに喜んでもらえたり、先輩に認めてもらえたりすることがうれしくて一生懸命でしたね。大事なのはやっぱり「気持ち」です。気持ちが通じて信頼関係ができると先輩も安心して仕事をまかせてくれるようになりますから。腕試しのつもりでヘアメイクのコンテストにもたくさん出場しました。最初に参加したときは話にならないレベルでしたが、経験を重ね優勝できるようになると、それが自信になりました。

独立したのは目標より少し遅れて32歳の時。技術はあっても資金のメドを立てるのに少し時間がかかったんです。

≫この仕事で大事なことは何でしょうか?

お客さまごとに好みや似合うスタイルが異なるうえ、同じお客さまでも日によって気分によってニーズは変わります。毎回お客さまのご要望をおうかがいし、その方のために、今何ができるかを一から考える。これが一番大事なポイントです。また、お客さまの体に触れる職業ですから、信頼し、まかせていただくことが重要。だから、見ためや接し方を含めた第一印象のよさも必須条件です。ウチの接客は、気取らず関西ノリですよ(笑)。お客さまが笑顔になってくれないと始まりませんからね。こうした努力の結果、お客さまに喜んでいただけることがヘアメイクにとっての最高の喜びです。

≫高校生にメッセージをお願いします。

ヘアメイクは個人の力量で勝負できる世界。努力をして認められれば、芸能人を相手に仕事をすることもできるし、国際的な舞台で活躍するチャンスもあります。ぜひ、夢をもって頑張ってもらいたいですね。

■石村さんのある1日

10:00 石村さんの拠点は京都なので、タレントが関西で仕事があるときなどにヘアメイクを依頼される。その際はスタッフと一緒にテレビ局やスタジオに赴く。その他の日も、日中は経営している店舗などを飛び回っていることが多い

19:00 閉店後の店舗でスタッフのトレーニング

22:00

#07 音楽プロデューサー

「これだ!」と思える アーティストと出会い、音楽を広める喜びがある

コロムビアミュージックエンタテインメント株式会社 A&R本部
コロムビアジャパン第1制作部 ロビンワークス チーフプロデューサー

≫音楽プロデューサーとは、どんなお仕事なんですか?

新人を発掘して育て、楽曲の方向性を決め、プロモーション活動をします。ただ、アーティストの資質や音楽性などによって、プロデューサーの仕事内容は変わってきます。それを前提に、ぼくのケースをお話ししたいと思います。

ぼくが音楽業界に入ったのは36歳のときです。以前は外資系の経営コンサルティング会社に勤め、企業の幹部に対して経営戦略を提案する仕事をしていました。コスト削減や新規事業の提案などです。その経験がかわれ、コロムビアに入社してまず新規事業を担当。ぼくが提案したのは、ネットを活用するビジネスモデルです。音楽配信で新人アーティストの曲を毎月発売し、ダウンロード数が好調ならCDを制作して発売するというものです。今は珍しくないかもしれませんが、07年当時としては実験的なプロジェクトでした。まずCDデビューというやり方に比べて低コストで曲を発表できて、CD発売の前にリスナーの反応もつかめる。そのプロジェクトの第1号アーティストが、たむらぱんです。彼女は自分で作詞、作曲をし、当社が発掘する以前からインディーズで活動していて音楽面をサポートするマネージャーもついていた。ですからプロデューサーであるぼくの主な仕事は、プロモーション戦略や予算の管理。CMソングの契約など法律的な手続きにもかかわります。

> 音楽が好きで好きでたまらないという情熱にプラスして、音楽以外に好きなことや得意なことがあるといいと思います。

≫どうしてこの仕事に転職しようと思ったんですか?

30歳のころ、素直に「好きだな」と思えることをやりたくなった。それが音楽でした。高校、大学とバンドをやり、作詞、作曲もしていました。大学では近現代の国文学を専攻し、筋金入りのロック&文学少年だったんですよ。

≫この仕事のおもしろさ・やりがいは?

たむらぱん発掘のきっかけは、ネットで得た情報です。SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)の交流型サイト「マイスペース」で曲を公開したら、4ヵ月で1万人のファンを獲得したというんです。早速ライブを聴きにいき、その場で名刺を渡しました。彼女に才能を感じたんです。他のレコード会社からも声がかかったようですが、07年10月に当社からメジャーデビューしました。でも、宣伝は苦戦しました。当時はCDが出ていないと、ラジオで曲を流してもらえなくて。おまけにぼくは業界に入りたてで知識も人脈もない。予算もない。あったのは「絶対に売る!」という情熱です。彼女の所属事務所の人と知恵を出し合い、楽曲配信に合わせて低予算でプロモーションビデオを作り、サイトにアップしました。また、つてを頼り、情報誌とのコラボ企画を実現させました。それからダウンロード数が増え、08年4月に初のCDアルバムが発売になりました。たむらぱんはCDショップでインストアライブもやっています。回を重ねるごとにお客様が増え、今ではフロアがぎっしり埋まるんです。ファンの輪が広がっている実感がありますね。7月21日に5枚目のシングルCDが発売されるので、一気にブレイクさせたいです。

≫この仕事で活躍するために必要な力は?

音楽が大好きなのは大前提で、音楽以外の一芸もあるといいと思います。たとえば英語とか。ぼく、外資系コンサルティング会社時代、猛勉強して語学力をつけたんです。今、新人アーティストに楽曲作りのアドバイスをしていますが、歌詞に英語のフレーズが出てきたときに役立っていますよ。

■土門さんのある1日

11:00頃 出社	メールチェックや関係者に電話連絡。部下からの報告を受けて社内で打合せなど
12:00	午後は外出。マスコミ関係者と新曲CDの宣伝の打合せ。夜はアーティストのプロモーションビデオの撮影に立ち会う。帰宅は深夜になることが多い
2:00 帰宅	

#08 レコーディングエンジニア

アーティストの思いを汲み取りながら音を作っていく仕事です

スタジオ エム・ポイント レコーディングエンジニア

≫レコーディングエンジニアとはどんな仕事ですか?

ぼくの場合、演歌からJ−POP、ロック、アニメのテーマソングまで多種多様な歌の録音をしています。アーティストや、レコード会社のディレクターといった人たちの「この歌はこう表現したい」という熱い思いを実際に音にするのがぼくらの仕事です。4分ほどの歌を1曲録音する場合も、3〜4時間かけるんです。ひとつの歌を主旋律、サビのフレーズという具合に、いくつかの部分に分けて録音し、よいテイクをつないで完成させるというのが一般的な録音方法で、うまく歌えていない部分は納得いくまで録り直しをします。CDは残るものなので、ベストな音質を追求するんです。ディレクターからは「この言葉をもっと聞かせたいからボリュームを調整して」などと指示が出されるので、的確にこたえていくことが大切。そういうときの指示で多いのが「キラキラとした音にしたい」「やわらかめの明るい色の音に」という抽象的な言葉。なので、それに対してどういう音質がぴったりくるのか考え、「こんな感じでどうですか?」と提案するんです。「キラキラとした音って何だ?」と悩みつつも楽しいんですよ、そういうプロセスが。

相手の求めるものをイメージできず、頭を抱えることもあるけど、ほしがっている音が理解できて、いい仕事ができたと思えるときがあるんです。「今日はよかったよ、次もお願いね」と言われると、素直にうれしいです。

≫これまでで印象に残っている仕事は?

入社2カ月め、アシスタントでしたけど、初めて楽曲の録音にかかわってCDが発売されたときはすごくうれしくて。「できたよ!」と、親に電話しました。ぼくがこの業界に進むことに賛成ではなかった両親ですが、「よかったね!」と喜んでくれて、CDを買ってくれた。自分がかかわった曲がCDになるのは、僕自身、今も楽しみで、スタッフのクレジットに自分の名前を見るときは達成感を感じますよ。

≫この仕事を目指した理由は?

高校時代はバンド活動をしていて、2年のとき、友人のバンドの録音に立ち会ったんです。レコーディングエンジニアの人がいて、その人のアドバイスで音が変わっていく過程をみて、すごいなと。早速、調べてみたら、ぼくに合っている仕事なんです! スタジオの電気回路や機材の知識、パソコンのスキルが必要なんですけど、ぼくは物理と数学が得意で電気回路図大好きで、パソコンも大好きで。担任の先生や親からは大学の理系学部への進学をすすめられましたが、大学を出てもやりたい仕事ができるとは限らないでしょう? 手に職をつけて好きな仕事をしようと決め、基礎を学ぶために専門学校へ進みました。新卒を大量に採用する業界ではないので、就職活動は楽ではなかったけど、専門学校の先輩の紹介で今の職場に入ることができました。

≫この仕事で活躍するために必要な知識、技術は?

録音の基礎知識は必須として、それ以外ではまず、楽譜は読めたほうがいいと思います。案外必要なのは英語です。機材は英米の製品ですので、取扱説明書が英文なんです。

≫この仕事に興味のある高校生にアドバイスを。

「これは嫌いだから」と先入観をもつと、音に対する自由な発想ができなくなってしまいます。たくさんの音楽を聴いたり、映画を観たり、いろいろな場所でいろいろなものを見て感性を磨く。これ、すごく大切だと実感しています。

■野田さんのある1日

11:30 出社	録音の開始時刻によって出社時刻が異なる。13時開始なら正午前に出社し、マイクや譜面台などを準備
13:00	レコーディング。1曲の歌録りだと、18時〜19時頃終了。その後、音程などの部分修正をする編集作業にとりかかることも多く、作業は真夜中まで。徹夜仕事も少なくない
3:00 帰宅	

楽譜を読む力や、英語もできたほうがいいと思いますが、学生時代はいろいろな音楽を聴いたり、映画を観て、感性を養うことも大切です。

#09 映画監督

自分のカラーを作品でどう表現するか、それを第一に考えています

映画監督
荻上直子氏

おぎがみ・なおこ●1972年生まれ。千葉大学工学部画像工学科卒業。1994年に渡米し、南カリフォルニア大学大学院映画学科で学ぶ。代表作は『かもめ食堂』『めがね』。カナダ・トロントで撮影した新作『トイレット』は8月28日公開。

≫どんな高校生だったんですか?

写真が好きでしたね、映画じゃなくて(笑)。高校1年生の時、家族旅行で撮った写真がけっこううまく撮れて、以来写真家を目指しました。あの頃は、もっとうまく撮りたい！という一心で、あちこち被写体を探しては撮影して回っていました。それで、大学も写真関連の学科に進んだんです。

>>本格的に映画監督を志したのはいつ頃ですか?

写真の延長線上でだんだん映像にも興味をもつようになり、だったら本場アメリカで学ぼうと大学卒業後に留学しました。実は映画をちゃんと観るようになったのは留学してからで、監督になろうと思ったのは授業で脚本を書くようになってからです。自分の脚本を映像にしたい！という気持ちが強くなっていきました。

≫映画監督になるために必要なこととは?

自主制作映画を何本も撮るうちに技術は上がっていきます。そして、作品がプロデューサーなどに認められれば、プロの監督としてデビューするチャンスが得られます(監督自身は2001年に自主制作作品でぴあフィルムフェスティバルの音楽賞を受賞し、長編劇場公開作デビューが決まった)。ただし、それまでは苦しくて不安定な生活が続きますから、みんなやめてしまうんですよね。だから、一番大切なのはやめないことだと思います。

また、デビュー後に監督として撮り続けるのも大変ですが、私は、自分のカラーとはどういうものか、それを表現するにはどうしたらいいかということだけ考えて目の前の作品に取り組んでいます。

≫映画監督の仕事内容について教えてください。

撮影現場での演出、撮影後の編集や音付けの指示などが主な監督の仕事です。キャスティングやスタッフの選出にもかかわります。あと、これは監督にもよるのですが、私の場合は脚本も手がけています。『かもめ食堂』のように原作があってそれを脚本にするケースもあれば、新作の『トイレット』のようにオリジナルストーリーを作るケースもあります。

映画に興味があるなら、スチールでも動画でも、カメラで遊んでみるといいと思います。まずは撮ることのおもしろさを感じてください。

演出に関していうと、最初は、プロの役者さんたちを前にして何をしていいかよくわからず、緊張を解くために、とにかく「スタート！」「カット！」は大きな声で言おうと、それだけは意識していました(笑)。

≫作品のアイデアはどうやって生まれるのですか?

例えば、『トイレット』には母親の形見のミシンでスカートを作って自分ではく男の子が登場しますが、このアイデアはテレビでゲイの男性が花柄の鞄を作っているのを見て思いついたんです。留学時代に脚本の授業などで強制的に考える訓練を重ねたことで、ちょっとしたことからアイデアを膨らませるクセがついているのではないかと思います。

≫映画監督のおもしろさ、やりがいとは?

自分の頭のなかで考えたことが多くのスタッフの力を得て映像になっていき、そしてそれが自分の想像を超えたものになっていく…これが監督業のおもしろいところです。

また、世の中悲しいニュースが多いですし、映画くらいは笑ってもらえるものをと思って作品を作っているので、お客さんが笑ってくれるとすごくうれしいです。

『トイレット』もそんなちょっと笑えるヒューマンドラマ。若い兄弟の自立と成長の物語でもあるので、高校生の皆さんにもぜひ見ていただきたいです。

■荻上さんのある1日

10:00 起床

荻上監督の場合、撮影以外のときは、1日中自宅にこもって新作の構想を練ったり、脚本を書いたりしていることが多いという。一方、撮影期間中は、様々なロケ場所で朝から晩まで撮影を行うハードなスケジュールが続く。起床、就寝時刻はその日のスケジュールによりバラバラ

2:00 就寝

#10 芸能マネージャー

発掘した新人が成長し、出演したドラマが評価されるとうれしいです

株式会社アミューズ 第3マネージメント部 第2制作室長 兼 映像製作部プロデューサー

≫どういういきさつでこの仕事についたんですか?

学生時代は芸能マネージャーになるなんて、思いもよりませんでした。映画制作とバンド活動に明け暮れていたので、就職活動に出遅れてしまい、とりあえずアパレル会社や出版社、テレビ局、広告会社など、人気企業といわれる会社ばかりを受験。結果は全滅でした。そんな大学4年の夏休み、新聞でアミューズの求人広告をみつけて興味をもったんです。どんな会社なのか、よくわからなかったんですが、「アーティストマネージメントの仕事」の横に、「映画制作」と書いてあった。「映画作りの現場で働けたらいいな」と思い、受験したら受かってしまいました。入社して配属されたのはタレントのマネージメントの部署で、深津絵里を担当することになったんです。希望した映画の部署ではなかったけれど、これもまたおもしろいかなと思いました。そうして入社15年目の今は3人の部下と一緒に、深津をはじめ、上野樹里、吉高由里子など9人の役者を担当しています。

≫芸能マネージャーとは、どんな仕事なんですか?

タレントを車で送迎したり、スケジュール管理など付き人的な仕事を想像していましたが、それにとどまらないんです。歌や演技のレッスンを受けさせたり、「こういう本を読んだら?」とアドバイスをしたり、悩み相談にものる。タレントにプラスになるようなサポートを、僕らがやっていくんです。時には、タレントが出演するドラマや映画の企画段階で、作品がよりおもしろくなるようなアイデアをプロデューサーと一緒に考える、なんてこともやります。オーディションやスカウトで新人を発掘するのもぼくらの仕事。タレントに活躍の場を提供して、育てていくこともする。タレントの成長にかかわるという、やりがいのある仕事なんですよ。

この仕事につくためには専門的な知識などは特に必要ありません。学生時代は、やりたいことをめいっぱい楽しんでください。

≫最もやりがいを感じるのはどんな時ですか?

タレントの活躍の場を作るために、テレビ局や映画制作会社に売り込みをかけるのもぼくらの重要な仕事です。自分が営業してとってきたドラマや映画の評判がよくて、担当タレントの評価が上がったときのやりがいは大きいですよね。

≫では、この仕事のどんな面がつらいですか?

仕事時間が不規則で、体力的につらい面はありますね。ドラマや映画の撮影現場にも同行しますが、早朝から深夜まで続く日も多いですから。でも、撮影現場は好きですよ。100人もの制作スタッフがいて、文化祭みたいで楽しいんです。

≫この仕事で活躍するために必要なことは?

多くの人とかかわり、交渉ごとの多い仕事ですからコミュニケーション能力が必要です。自分の意見を伝えるのも大事ですが、相手が何を望んでいるかを理解できる力が求められます。でも、うまくいくときばかりではありません。失敗もするし、大変なことはいっぱいあります。ひとつのことをくよくよ引きずらず、気持ちを切り替えていくことが肝心です。

≫この仕事を目指す高校生にアドバイスをお願いします。

好きなことを思い切りやればいいと思います。歴史が好きなら歴史の勉強、漫画が好きなら漫画にのめりこむ。何かに夢中になることは感性を豊かにしてくれるので、役に立つはずです。僕は高校、大学で映画制作とバンドに熱中していました。ストイックに打ち込んでいたのではなく、小道具の調達など雑用も楽しんでやっていました。主役をやりたいというタイプではないんです。思いがけず芸能マネージャーになったぼくですが、自分に向いている職業に出会えたと思います。

■中町さんのある1日

- 9:00 出社
- 1日のスケジュールは日によって異なる。朝4時起床で撮影現場に出向くことも。社内で全体会議がある日は9時に出社
- 12:00
- ドラマや映画、CM、イベントなどの打合せで外出。4〜5件の打合せをこなす日も。帰宅が深夜になることも多々ある
- 24:00 帰宅

#11 声優

自分以外の何かになりたいという願望をかなえてくれる仕事です

アイアムエージェンシー所属

≫声優を目指したきっかけは?

小さい頃からアニメが好きで、特に『美少女戦士セーラームーン』や『カードキャプターさくら』など、女の子が戦う物語をよく見ていました。声優の存在を意識したのは、中学時代にハマった『テニスの王子様』。主人公の越前リョーマを演じた皆川純子さんにあこがれて、マンガのセリフや自分で書いた小説を声に出して読むようになりました。

でも高1までは美容師になるつもりだったんですよ。卒業後は美容の専門学校に行くと決めていたのですが、友達に誘われて、声優の専門学校の体験入学に参加。台本を渡され、スクリーンに映ったアニメに合わせて演技をしたらすごく楽しかったんです。1度決めた進路を変えたくなくて迷いましたが、「後悔したくない」と声優の道を選びました。

≫どうしたら声優になれますか?

私の場合、まず専門学校に入りました。大阪で基礎を身につけてから東京に行こうと考えたんです。専門学校では、アフレコの技術はもちろん、役者として演技の基礎を学びました。声だけですべてを表現するのはとても難しいことなので、演技力がとても重要です。またたくさんの仲間がいるなかで、自分の演技のタイプや、業界の礼儀作法も学びました。

たいていの専門学校では体験入学でアフレコを体験させてくれるので、試しに受けるといいかも。とにかくやってみることが大切!

専門学校2年目に、20社くらいの声優事務所が審査員となるオーディションが学内で行われました。演技と自己PRを見てもらい、声をかけていただいた事務所と話し合って卒業後の所属先を決めます。私は19社に声をかけていただき、そのなかから今の事務所に所属を決めました。

事務所に所属してからは、事務所のレッスンや自主練習で力をつけながら、オーディションを受けて仕事をとっていきます。簡単に声優の仕事だけで生活できるようにはならないので、あきらめて別の道に進む人もいます。そこは自分との闘いですよね。根気が必要な仕事だと思います。

≫お仕事の内容を教えてください。

アニメや洋画に声をあてるのが声優の基本的な仕事です。スタジオでは、最初に音無しの映像を見て、自分が演じるキャラクターの口の動きやタイミングを確認し、次に映像に合わせてリハーサル、本番と声をあてます。ほかにもテレビ番組やCMのナレーション、ケータイアプリの音声など、声を使う仕事なら何でも声優の仕事になります。また歌手としてCDを出したり、役者として舞台に立ったりする人もいます。

仕事はオーディションから始まることが多いのですが、事務所の営業担当者が声のサンプルを使って売り込んでくれて、仕事につながることもあります。『私が裁判員に選ばれたっ!』というオーディオシネマドラマに私が参加した時は、そのパターンでした。少し低めの私の声が、スタッフの方のイメージに合っていたようです。有名になれば「●●さんにお願いします」と指名で仕事が来るようになります。

≫仕事のやりがいはどんなことですか?

声優は、自分以外の何かになりたいという願望をかなえてくれる仕事ですよね。自分と正反対のキャラクターになることも可能ですし。私は自分から人に話しかけるのが苦手なんですけど、声の仕事ならハキハキと積極的な女の子にもなれるし、とんでもない悪役にもなれる。それが楽しいですね。

オーディションに落ちたり、演技が思うようにできなかったりするととても落ち込みますが、映画や舞台を見るたびに「やっぱり好きだな、やめられないな」と感じます。

■鵜川さんのある1日

#12 ダンサー

できないことをやってみたい！そんな気持ちが原動力になっています

ダンサー
MASAMI氏

まさみ●1981年生まれ。兵庫県立播磨南高校卒業。キャットミュージックカレッジ専門学校でストリートダンスを学ぶ。ロック、ソウル系の"BLOOM"、フリースタイルの"FUNKY ZIGGY"の2チームに所属。「JAPAN DANCE DELIGHT」に3年連続出場。

≫ダンスは高校の頃からやっていたんですか?

安室ちゃん世代なので、歌やダンスにはやっぱり興味はありました。でも、本格的にダンスをやってるって感じではなかったですね。当時は、将来のこともちゃんと考えずに遊んでいて、親ともよく喧嘩になりました。スポーツも特にやってなかったです。運動神経がまったくないんですよ、私(笑)。走るのも遅かったですし。高校3年の頃から写真部に入ったり、むしろ芸術系の分野に興味がありましたね。だから芸術大学に進もうかとも思ったんですけど、勉強も苦手だったので、専門学校に進んで好きなダンスをやってみようと思ったんです。

≫ダンサーになろうと決意したのは?

キャットミュージックカレッジ専門学校に入学してしばらくはただ楽しいだけでやっていました。それで、1年目の夏休み明けに練習をしないで授業に出たら先生に「ナメてるのか！」とすごく怒られたんです。それが悔しくて必死にやったら学内でベストダンサー賞を受賞できたんです。「頑張ったらできるんや！」というのがわかって、そこからですね、本気でダンスをやってみようと思ったのは。

2年目のときに学校の仲間と"BLOOM"という4人組のダンスチームを作って、そのときには「ダンスで食べていこう」と決めていました。それで頑張っていたら、在学中に学外のコンテストで優勝できたんです。

≫そこからは順調に?

いえいえ(苦笑)。優勝したことで一時期調子に乗ってしまい、結局勝てなくなってしまって。学校の外にも頑張っている人はいっぱいいる。それがわかったので、もっとストイックにやらなきゃだめだと気合いを入れ直しました。学校を卒業したあとも、バイトをしながら練習を重ね、月1回くらいのペースでコンテストにも出場する日々が続きました。目標としていた「JAPAN DANCE DELIGHT」(日本最大のストリートダンスコンテスト)に出場できたのは、チームを結成して5～6年経った頃ですね。メンバーは私ともう1人だけになっていて、3年前の大会の前には「これでダメだったらもうやめよう」と話していたんです。そうしたら予選を突破できた！あの時は本当にうれしかったですね。

この世界で残っているのは"うまい人"よりも"好きな人"。ダンスが好きだという気持ちをもち続けることが何より大切だと思います。

≫今はダンサーとしてどんな仕事をしているのですか?

私の場合は、仕事のメインはインストラクター。あとは、生徒さんの発表会用の振り付け、コンテストの審査員、それからタレントのバックダンサーもやりました。大きな大会に出場すると、やはり仕事の依頼は増えますね。また、先輩たちが企画したダンスのショーに出演することもあります。

今、ストリートダンスを舞台で見せる動きも広がっているので、これからは舞台で活躍するストリートダンサーも増えていくと思います。

≫この仕事のやりがいとは?

自分たちのダンスを若い子たちが目をキラキラさせて見ているのを感じると、人に元気を与えられる仕事なんだなと実感します。また、ダンスは思い描いたとおりにいかないことも多いし、表現だから見る人の評価は様々。みんながいいと言ってくれるわけではありません。だから行き詰まることも多いんですが、私にはそれがおもしろいんです。できないことをやってみたい、みんなに「いい！」って言わせたい、そんな気持ちが原動力になっています。

■MASAMIさんのある1日

9:30 キャットミュージックカレッジ専門学校では週2日インストラクターを務めている。金曜日は午前中にボーカル専攻1年生対象のボディームーブメントのクラスを担当

12:40 ダンスの練習は毎日。空いている時間を利用して、練習スタジオへ。個人練習の日もあればチームで集まって練習する日もある

18:00